

AI 普及によるストレージ需要拡大で、ハードディスクメディア生産に 約 150 億円の追加投資

～シンガポール拠点の生産能力を更に増強、価格改定も実施～

株式会社レゾナック（代表取締役社長 CEO：高橋秀仁、以下、当社）は、2026 年 5 月に発表した「[ストレージ需要に応じ、ハードディスクメディアの生産能力を拡大](#)」に関連し、さらなる供給体制強化を目的として、シンガポール拠点における追加投資（以下、本投資）を決定しました。あわせて、本投資の実行を前提とした価格改定について当社のお客様と合意しました。

現在、データセンター向けストレージ需要は、生成 AI やクラウドサービスの普及を背景に中長期的に拡大することが見込まれており^{*1}、特に高い信頼性と大容量を特長とし、コスト効率に優れたニアライン^{*2} 向けハードディスクドライブは、今後もデータストレージの中核を担うことが期待されています。

こうした市場環境を踏まえ、当社は、重要なデジタルインフラを支える唯一の外販ハードディスクメディアメーカーとして、お客様への安定供給を果たすことを重要な責務と認識し、ハードディスクメディアの安定供給体制のさらなる強化に取り組んでいます。

その中で当社は、グループの中核拠点である Resonac HD Singapore Pte. Ltd.において、一部に遊休設備を活用し投資効率を確保しつつ追加投資を行います。生産能力は、2026 年 5 月に発表した「[ストレージ需要に応じ、ハードディスクメディアの生産能力を拡大](#)」での能力増強と合わせて、現状の約 1 億 6,000 万枚規模から 44%増となる年間約 2 億 3,000 万枚規模へと拡大します。今回の追加投資額は約 150 億円であり、2029 年以降、市場動向や需要に応じ順次生産ラインを立ち上げる予定です。

また、本投資の実行にあたり、データセンター向け需要の拡大を背景として、投資額相当の価格改定について、お客様であるハードディスクドライブメーカーと合意しており、供給能力の拡充と収益性の向上を両立していきます。

当社は今後も市場の成長や顧客ニーズの拡大を踏まえ、機動的な成長投資を継続するとともに、業界最高水準の記録密度を有するハードディスクメディアの開発・供給を通じてデータセンターをはじめとするデジタルインフラの発展に貢献していきます。



ハードディスクメディア



Resonac HD Singapore Pte. Ltd.

*1 ニアライン²向けハードディスクドライブ出荷容量：2025-2030 年で CAGR 23%成長（Trend Focus 調べ）

*2 ニアライン（Nearline）：データセンターなどで使用される大容量ストレージ用途の一つ。常時オンラインでアクセス可能だが、頻繁な高速アクセスを必要とするデータではなく、バックアップやクラウドデータなど比較的アクセス頻度の低い大量データの保存に用いられる。

以上

【Resonac（レゾナック）について】

レゾナックは、2023 年 1 月に昭和電工と旧日立化成が統合して発足した機能性化学メーカーです。2025 年度の半導体・電子材料の売上高は、約 5,000 億円に上り、特に半導体の「後工程」材料では世界トップクラスの企業です。2 社統合により、材料の機能設計はもちろん、自社内で原料にまでさかのぼって開発を進めています。社名の「Resonac」は、英語の「RESONATE：共鳴する・響き渡る」と、Chemistry の「C」の組み合わせです。今後さらに共創プラットフォームを生かし、国内外の半導体メーカー、材料・装置メーカーとともに技術革新を加速させていきます。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

株式会社レゾナック・ホールディングス <https://www.resonac.com/jp/>

◆ 本件に関するお問い合わせ先

株式会社レゾナック・ホールディングス

ブランド・コミュニケーション部 メディアリレーショングループ [お問い合わせフォーム](#)